

スポーツウエルネス学部の教育目的												
「すべての人の生きる歓びのために」という基本理念に立ち、スポーツウエルネス学の教育研究を通じて、人間の可能性の追求と誰もが快適で活力に満ちたウエルネス社会の実現に寄与する人材を養成する。												
学修成果												
1)豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる （「1.リベラルアーツの素養」「5.他者を理解する姿勢」「7.リーダーシップ」「9.社会的実践力」と関連） 2)スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる （「1.リベラルアーツの素養」「2.専門性」と関連） 3)スポーツウエルネス学に必要な自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できる （「1.リベラルアーツの素養」「2.専門性」「3.自己を理解し発展させる力」「6.表現力」と関連） 4)ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる （「1.リベラルアーツの素養」「2.専門性」「8.国際性」と関連） 5)スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる （「1.リベラルアーツの素養」「5.他者を理解する姿勢」「6.表現力」「9.社会的実践力」と関連） 6)自らのキャリア設計をすることができる （「3.自己を理解し発展させる力」「4.キャリア展望を確立する力」「6.表現力」「9.社会的実践力」と関連） 7)グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる （「5.他者を理解する姿勢」「7.リーダーシップ」「8.国際性」「9.社会的実践力」と関連）												
スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科（課程）の カリキュラム					スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科の学修成果との関連 （◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連）							
科目名	主要授業 科目	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1）豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる	2）スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる	3）スポーツウエルネス学に必要な自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できる	4）ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる	5）スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる	6）自らのキャリア設計をすることができる	7）グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる	
基礎演習	○	専門必修科目	1	大学での主体的な学び方について考え、準備を行う。基本的学習技術を得得する。学部の特徴や専門性について理解した上で、自分の将来設計を考えることができる。	◎		○		○			
スポーツウエルネス学入門	○	専門必修科目	1	個人や社会全体のウエルネスの向上を考えると、健康やスポーツがどのように関わるのかを、多角的な視点から理解できる。		◎		○				
スポーツマンシップ論	○	専門必修科目	1	社会の構成員として生きる上で必要な哲学的思考および倫理的観念を学び、それらを実践するためにスポーツが果たすべき教育的意義や価値を考察する。	◎	○			○			
スポーツリーダーシップ論	○	専門必修科目	1	スポーツ活動におけるリーダーシップの考え方を理論的に学ぶとともに、活躍するリーダーからの話、グループワークからその実践方法について理解する。	◎	○			○		○	
スポーツウエルネスワークショップA	○	専門必修科目	1	少人数のゼミナール形式での、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的学習から、多様なスポーツウエルネス学領域を理解する。			◎	○				
スポーツウエルネスワークショップB	○	専門必修科目	2	少人数のゼミナール形式での、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的学習から、多様なスポーツウエルネス学領域を理解する。			◎	○				
スポーツウエルネスワークショップC	○	専門必修科目	2	少人数のゼミナール形式での、学生による主体的な調査、討論、実習、プレゼンテーション等の実践的学習から、多様なスポーツウエルネス学領域を理解する。			◎	○				
卒業研究指導演習	○	専門必修科目	4	卒業研究論文の執筆に関して、教員から指導・援助を受け論文を完成に向けて取り組むことができる。			◎		○	○		
卒業研究 ベイシックコース	○	専門必修科目	4	これまでの学習の総括として、自らの関心に応じてスポーツ科学およびウエルネス科学のそれぞれからテーマを設定し研究に取り組むことができる。		○	◎	○		○		
卒業研究 アドバンストコース	○	専門必修科目	4	これまでの学習の総括として、自らの関心に応じて一つのテーマを設定し、調査研究の立案し、結果をまとめ、論文を作成するとともに、内容のプレゼンテーションと議論ができる。		○	◎	○		○		
運動方法学演習1（フィットネス）	○	専門基礎科目	1～4	エアロビックエクササイズ、フィットネスに関連する十分な知識やスキルを得得すると同時に、現代社会における健康の意味や運動の意義を理解する。	△	○			◎			
運動方法学演習2（陸上競技）	○	専門基礎科目	1～4	効率的な動きを得得するために、陸上競技の基本的なドリルを実践して、スポーツ競技の基礎となる走運動、投運動、跳躍運動を理解する。	△	○			◎			
運動方法学演習3（サッカー）	○	専門基礎科目	1～4	サッカーの技術、戦術、ルール、指導法等について学び、無酸素運動と有酸素運動が混合した球技特有のトレーニング効果を理解する。	△	○			◎			
運動方法学演習4（テニス）	○	専門基礎科目	1～4	生涯スポーツに適したテニスにおける基本技術の習得とテニスに必要な体力の向上を図り、最終的にゲームの楽しさを理解する。	△	○			◎			
運動方法学演習5（スキー）	○	専門基礎科目	1～3	受講者それぞれの技術に応じ、どのような斜面でも楽しく滑走できるようになる。また、スキーの指導法に関しても身につけることができる。	△	○			◎			
運動方法学演習6（野外活動：キャンプ）	○	専門基礎科目	1～4	豊かな自然環境の中でアウトドア活動を行い、自然に親しみ、同時に環境問題について考えることができる。	△	○			◎			
運動方法学演習7（バスケットボール）	○	専門基礎科目	1～4	バスケットボールの技術、戦術、ルール、指導法等について学び、これらの球技を楽しむ能力を身につける。	△	○			◎			
運動方法学演習8（剣道）	○	専門基礎科目	1～4	剣道の技術、戦術、ルール、指導法等について学び、これらの武道種目を楽しむ能力を身につける。	△	○			◎			
運動方法学演習9（水泳）	○	専門基礎科目	1～4	水の特性を知り、水泳・水中運動を通じて、水中環境下での運動への理解を深めると同時に、健康づくり、体力向上の意義を理解する。	△	○			◎			
運動方法学演習10（器械体操）	○	専門基礎科目	1～4	器械運動の基礎的な理論と実技を理解し、特に基礎となる体力の向上を図り、器械運動に不可欠な基礎技術の習得と実践できる能力を身につける。	△	○			◎			
運動方法学演習11（柔道）	○	専門基礎科目	1～4	柔道の本質に触れ、技術の習得とともに礼法を学び、生涯スポーツとしての柔道の習得、さらには柔道指導法としての基本的なコーチング技術の習得を目指す。	△	○			◎			
運動方法学演習12（ダンス（表現））	○	専門基礎科目	1～4	リズム・音楽・イメージに合わせて身体を動かし、踊る・つくるダンスの本質に触れ、ダンス（表現）の個性や自身のダンス（表現）から、指導と評価方法を学ぶ。	△	○			◎			
運動方法学演習13（バレーボール）	○	専門基礎科目	1～4	基礎技術の習得を通じて、どのような方法で指導をするのか、具体的な指導場面と中高生の技能水準を十分に考慮した方法論を探究する。	△	○			◎			
運動方法学演習14（ハンドボール）	○	専門基礎科目	1～4	ルールと基本的な個人技術・チーム戦術を学習し、チームスポーツに必要な他者とのコミュニケーションを通し、指導方法の基礎を学習する。	△	○			◎			
運動方法学演習15（バドミントン）	○	専門基礎科目	1～4	基本的なストローク技術・ルールの理解、習得し、試合を通して、プレーすること、他者のプレーを見ること等から、バドミントンへの多角的な携わりを学ぶ。	△	○			◎			
運動方法学演習16（ソフトボール）	○	専門基礎科目	1～4	ベースボール型スポーツの特性を理解し、ルール等を学習し、ソフトボールの基礎技術や基本的ゲーム構造を実践を通して学習する。	△	○			◎			
運動方法学演習17（トレーニング）	○	専門基礎科目	1～4	健康維持・増進やスポーツにおける競技力向上などを目的とした国内外の様々なトレーニング方法について実践を通して理解を深めると同時に、そのトレーニングの目的に合わせた応用や指導方法に関する知識やスキルを得得する。	△	○			◎			
運動方法学演習18（スポーツコーチング）	○	専門基礎科目	1～4	スポーツを指導する上で最低限必要な安全管理と救命救急、スポーツマンシップおよびフェアプレー精神、選手の主体性を育むコーチングスキルを学び、プレイヤーズセンタードなコーチング法を得得する。	△	○			◎			
情報処理1	○	専門基礎科目	1～4	情報処理の基本的な考え方や概念、インターネット使用上の留意点を理解し、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフトの操作方法を得得する。			◎			○		
情報処理2	○	専門基礎科目	1～4	基本的情報発信スキルとしての資料作成、プレゼンテーション技法、ビジュアル作成、ホームページ作成技法を理解し修得する。			◎			○		
異文化スタディ	○	専門基礎科目	1～4	海外のフィールドにおいて、異なる生活や文化、その国や地域が抱える社会課題などを訪問先の人々との交流、対話、協働を通じて学ぶ。					○		◎	
キャリア形成論	○	専門基礎科目	1～4	大学卒業後の職業選択および初期キャリア形成についての学問的知見を理解し、その知識をふまえて自らのキャリア形成に対する意識を高める。	○				○	◎	○	
ウエルネス科学総論	○	専門基礎科目	1～4	国内で動いている健康に対する考えと取組みを理解し、人間の幸せとは何かを多面的に掘り下げ、個の価値観を尊重する考え方を身につけることができる。		◎		○				
スポーツ科学総論	○	専門基礎科目	1～4	スポーツを科学的に探求する様々な研究分野を学び、科学的手法を用いて観察した情報や実験結果が信頼されるものであることを理解する。		◎		○				

スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科(課程)の カリキュラム					スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)						
科目名	主要授業 科目	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1) 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる	2) スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる	3) スポーツウエルネス学に必要な自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できる	4) ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる	5) スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる	6) 自らのキャリア設計をすることができる	7) グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる
運動方法学	○	専門基礎科目	1～4	スポーツ・運動を指導する際の方法学的な基礎科学から、身体運動の基本となる動きの概念や身体運動のメカニズムを理解する。		◎		○			
生涯スポーツ論	○	専門基礎科目	1～4	従来の「スポーツ振興」の概念とは異なるスポーツプロモーションの視点から生涯スポーツ論の性格、内容、展開の現状や特徴について理解することができる。		◎		○			
運動生理学	○	専門基礎科目	1～4	運動を発生させるための人体のメカニズム、ならびに継続的な運動体験が人体に及ぼす生理学的な影響に関して理解することができる。		○		◎			
生理学	○	専門基礎科目	1～4	生命現象や生体機能の仕組みを学び、人体の機能系統の期間と働きを、特に、健康・運動に関するヒトの各器官の機能から、生理学の知識を身につける。		◎		○			
運動処方・療法	○	専門基礎科目	1～4	運動指導の専門家として健康づくりの重要性を認識・理解するとともに、一般の人の運動処方方が的確に行えるように理論と知識を幅広く身につける。		◎		○			
解剖学 1	○	専門基礎科目	1～4	身体各関節を構成している骨、関節、靱帯などを詳細を学び、その関節を動かすための筋・腱の名称とその筋腱の走行について理解する。		◎		○			
解剖学 2	○	専門基礎科目	1～4	動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどに最低限必要な人体の構造と機能について理解する。		◎		○			
アスレティックトレーナーの役割	○	専門基礎科目	1～4	スポーツ現場におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に学び、歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を理解する。		◎				○	
ウエルネスと時間生物学	○	専門基礎科目	1～4	生体内のさまざまな器官や機能における日内リズムなどのウエルネスに関連した時間生物学の学習から、ヒトのウエルネスを深く考察する。		◎		○			
ウエルネス理解のための基礎生命科学	○	専門基礎科目	1～4	生物を構成する分子とその役割について理解を深め、関係する生命現象の原理の学習から、幅広い学問分野である生命科学の基礎を身につける。		◎		○			
環境・サステイナビリティ論	○	専門基礎科目	1～4	サステイナブル(持続可能)な社会の実現に向けた方法を理論的に学び、環境問題がはらむ課題を探り、その解決方法について考察できる。		◎		○			
ウエルネス理解のための細胞生物学	○	専門基礎科目	1～4	真核生物の細胞の構造と機能について学び、関連する生命現象まで含めて理解を深める。特にヒトの各種細胞とそこで起きる生命現象について理解する。		◎		○			
抗加齢医学とウエルネス	○	専門基礎科目	1～4	加齢によるヒトの身体機能の低下とその原因究明へのプロセスを含めた理論と、機能低下を予防する取り組みなどの実践方法を理解する。		◎		○			
体育原理・体育史	○	専門基礎科目	1～4	「体育」と「スポーツ」の現代社会における存在理由および意義を学び、スポーツ文化と現代社会との連関、体育、身体教育思想の歴史について理解する。		◎		○			
スポーツ教育論	○	専門基礎科目	1～4	学校体育を含むスポーツ教育に関する基礎的知識の修得し、スポーツについて、概念、歴史、文化的様相を捉えながら今日的課題と今後の展望を考察できる。		◎		○			
データサイエンス概論	○	専門基礎科目	1～4	膨大なデータのスポーツウエルネス分野への応用を念頭に、データから意味のある事象を導き出すための、データサイエンスの理論と分析技法を理解する。		◎	○			○	
スポーツウエルネス学特別講義A	○	専門基礎科目	1～4	海外からの招聘教員などが担当し、グローバルな視点から、スポーツウエルネス分野の各種トピックについて理解できる。		◎	○				○
身体文化論	○	専門基幹科目	2～4	国内外の身体と文化に関する文献や視聴覚資料における文化的視座から身体を考究し、文化により異なる形態を示す身体文化の多様性を理解する。		◎			○		○
発育・発達・加齢論	○	専門基幹科目	2～4	発育・発達の性差と個人差、運動との関係、現代のこどもの諸問題、加齢に伴う生体構造、機能の変化についての知識を深めることができる。		◎		○			
スポーツウエルネス心理学(基礎)	○	専門基幹科目	2～4	スポーツ活動およびウエルネス向上に必要なストレス反応や行動変容理論や、身体運動がもたらす心理面への影響などの基礎知識を理解することができる。		○		◎			
ストレングス・コンディショニング論(基礎)	○	専門基幹科目	2～4	体力(ストレングス)と心身の状態(コンディション)を改善させる方法について、理論的背景を踏まえ、実施上のポイントを理解することができる。		○		◎			
運動・スポーツ栄養学(基礎)	○	専門基幹科目	2～4	運動生理学およびトレーニング科学の視点から栄養学を捉えなおし、スポーツ栄養学の基礎を学ぶとともに、運動実践者に対する栄養指導の実際を理解する。		◎		○			
スポーツ社会学	○	専門基幹科目	2～4	スポーツとそれを取り巻く様々な問題を社会的に検討し、スポーツと現代社会をめぐる理論的、実践的課題とその乗り越えの可能性を検討することができる。		○		◎			○
測定評価演習	○	専門基幹科目	2～4	人々の健康づくりやスポーツ選手の競技力向上に役立てることを目的とした体力測定と評価のスキルの理論と実践方法を理解できる。	△	◎	○				
アダプテッドスポーツ論	○	専門基幹科目	2～4	身体に障害をもつ人々にとって身体運動はどのような意義をもつのかという問いに対して、学生一人一人が考え、自分の意見をまとめることができる。		○			◎		○
ダイバーシティ・スポーツ論	○	専門基幹科目	2～4	ダイバーシティ(多様性)を重視する観点から、誰もが「自分らしく」スポーツと向き合い、誰をも排除することのないスポーツ界の形成について考究できる。		○			◎		○
スポーツ政策	○	専門基幹科目	2～4	スポーツに対する政策の社会科学的なとらえ方、およびその歴史的展開と現代社会におけるスポーツ政策の特徴や課題について理解することができる。		◎		○			○
健康政策	○	専門基幹科目	2～4	授業を通じて、1) 医療保険／介護保険制度の概要 2) 医療／介護サービス提供体制 3) サービス受給者の実態などを理解することができる。		◎		○			○
スポーツコーチ学	○	専門基幹科目	2～4	スポーツのコーチングにおける諸問題についてスポーツ科学がどれだけ接近できているのかについて理解し、スポーツ指導者の素養を身につけることができる。		○		◎		○	
コーチングスキル	○	専門基幹科目	2～4	スポーツ選手に対するコーチとしての対応手法を習得し、プレーヤーズセンタードなコーチングを理解して選手との良好な関係の中でコーチングできる。		◎				○	
スポーツ・健康産業論	○	専門基幹科目	2～4	スポーツ産業領域の代表的な事例を取り上げながら各領域の市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について考察できる。		◎		○			
コンディショニングの実際	○	専門基幹科目	2～4	選手がより良いコンディションを維持するために必要な知識と技能について、専門的ストレッチ、テーピングとマッサージ、トレーニングの方法が理解できる。		◎		○			
コンディショニング概論	○	専門基幹科目	2～4	選手が最高のパフォーマンスを発揮するために必要な要因、具体的な方法について競技特性を踏まえて目的にあったコンディショニングの方法を身につける。		◎		○			
アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング概論	○	専門基幹科目	2～4	アスレティックリハビリテーションの基礎的事項、外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションの具体的方法を身につける。		◎		○			
測定と評価	○	専門基幹科目	2～4	アスレティックトレーナーの業務に必要な測定・評価についてその意義と考え方を学び、その実践と結果から問題点の抽出までのプロセスを理解できる。		◎	○				
スポーツ医学(外傷・障害) 1	○	専門基幹科目	2～4	スポーツに関わる人に必要なスポーツ医学の領域の内、股関節、膝関節、足関節、足、骨盤などに関連したケガの発生原因と対処法を理解する。		◎		○		○	
スポーツ医学(外傷・障害) 2	○	専門基幹科目	2～4	スポーツに関わる人に必要なスポーツ医学の領域の内、頸椎、胸椎、腰椎や肩甲帯、肘、手関節、手などに関連するケガの発生原因と対処法を理解する。		◎		○		○	
コンディショニングの方法	○	専門基幹科目	2～4	コンディショニングの具体的な方法を、主にファンクショナルムーブメント(機能的動作)の獲得に向けた身体機能の評価とアプローチの方法を理解する。		◎				○	
アスレティックリハビリテーション実習 1	○	専門基幹科目	2～4	ストレッチとテーピングの種類や実施方法、注意点を十分に理解した上で、各スポーツ傷害に応じた適切なストレッチやテーピングを選択、実践できる。	△				○	○	
スポーツと法	○	専門基幹科目	2～4	現代スポーツで発生している差別や人権問題、選手選考、ドーピングさらには紛争解決などの各種法的问题の存在を理解し、個別の解決のあり方を理解する。	◎	○		○			

スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科(課程)の カリキュラム					スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)						
科目名	主要授業 科目	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1) 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる	2) スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる	3) スポーツウエルネス学に必要な自然科学的研究法と人文社会科学的研究法を適切に運用できる	4) ウエルネスとスポーツ活動及びそれを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる	5) スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる	6) 自らのキャリア設計をすることができる	7) グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる
生物多様性と人間社会	○	専門基幹科目	2～4	生物多様性について基礎から学ぶと共に、その保全や向上に寄与している国、企業、NGO、NP0、個人まで、様々な主体が取り組む活動事例を理解する。	◎			○			○
応用生命科学	○	専門基幹科目	2～4	生命科学の研究成果がどのように応用・利用されて、生活に、そしてウエルネスの分野に役立っているのか、実際の例を農学と医学の関連から理解する。	◎			○			
学校保健・学校安全	○	専門基幹科目	2～4	学校保健・学校安全の現状と問題点の対処法の学習から、生徒の保健管理と保健教育・安全管理と安全教育に必要な知識と実践力を身につける。	◎				○		
スポーツデータ収集演習	○	専門基幹科目	2～4	スポーツ活動中の動きや移動軌跡を記録したデータや、健康診断や体力測定で得られる数値などの、主に量的なデータの収集方法の理論を理解し実践できる。	△		◎			○	
キャリア教育実習	○	専門基幹科目	2～4	実習(就労)体験を通じて、社会問題への理解と関心を深めるとともに、将来の職業選択に関してリアルなイメージを描くことができる。	○				○	◎	△
スポーツ科学の応用と活用	○	専門基幹科目	2～4	スポーツを科学的に探求する様々な研究分野を学び、スポーツに関する偏った判断やあいまいな考えよりも、科学的手法を用いて観察した情報や実験結果が信頼されるものであることを理解することができる。スポーツ科学の「研究」成果を指導や報道などの「現場」へ伝える「通訳」となれるように、正確な知識を身につけることができる。	○	◎		○	△		
スポーツ現場におけるリスクの管理と対応	○	専門基幹科目	2～4	これまでにみられる数々のリスクマネジメントの現状を把握すると同時に、実際に起きたスポーツ事故を取り上げ、事故予防の観点から、事故の詳細について様々な角度からの把握に努める。また、安全対策および心肺蘇生法をはじめとした対処方法を考えると共に、安全なスポーツ環境の構築に向けた課題解決へのアプローチ方法を考察することができる。	○	◎		○	△		
レクリエーション援助論	○	専門展開科目	3～4	主に、人間交流による生きる歓びづくりにつながるレクリエーション援助の理論について考究することができる。	○				◎		
レクリエーション援助演習	○	専門展開科目	3～4	主に人間交流による生きる歓びづくりにつながるレクリエーション援助技術の理論と方法について考究することができる。	○				◎		
メンタルマネジメント	○	専門展開科目	3～4	ストレス反応や行動変容理論などの基礎的な知識、さらにストレスを生じないあるいはストレスフルな状況に負けない考え方を理解することができる。		◎		○			
スポーツジャーナリズム	○	専門展開科目	3～4	スポーツとメディアの現代的な関係と機能、さらにスポーツのメディア性についてクリティカルに考究することができる。		◎		○	○		
バイオメカニクス	○	専門展開科目	3～4	パフォーマンスの分析・評価、運動療法に関わるものにとって重要な素養となる、身体運動の巧みさや力強さをバイオメカニクスの基礎理論を理解する。		◎		○			
スポーツ倫理学	○	専門展開科目	3～4	スポーツ倫理学上の問題の所在を明らかにし、問題解決を模索し、スポーツの場でみられる諸課題について、倫理的な視座から今日的な指針を検討できる。	◎	○			○		
ウエルネスプロモーション論	○	専門展開科目	3～4	ウエルネス推進に関連する国内外のデータを検討し現状を把握すると同時に、先進的な事例を取り上げ多角的に分析することを通して、これからの社会に求められる環境、政策の具体的な在り方について考究することができる。		◎			○		
スポーツビジネス論	○	専門展開科目	3～4	スポーツ選手、観戦者、チーム運営者など様々なステークホルダーに関してビジネスが成立するためには何が必要なのかについて理解することができる。		◎		○			○
スポーツマネジメント論	○	専門展開科目	3～4	我が国でスポーツが体育と混同されてきた。「スポーツとは何か」を理解し、スポーツマネジメントとスポーツマーケティングの構造を理解することができる。		◎		○			○
コミュニティスポーツ論	○	専門展開科目	3～4	コミュニティにおけるスポーツのあり方、スポーツのコミュニティ形成機能等の議論を踏まえ、実践的課題とその乗り越えの可能性と方法について考究できる。		◎		○			○
障害者スポーツ論	○	専門展開科目	3～4	わが国の障害のある人々(身体障害者・知的障害者)のスポーツを中心にその現状と動向について論じ、これからの障害者スポーツを多面的に展望できる。		○		○	◎		
小児保健・精神保健	○	専門展開科目	3～4	次の世代を担う子どもたちが健康的に各々の生を全うするために、小児の特徴、小児保健の意義等について学びながら、大人たちが整えるべき望ましい環境の在り方について考えることができる。		◎		○			
公衆衛生学	○	専門展開科目	3～4	これから日本が迎えるであろう極端な高齢化社会の中で、いかに個人のQOLを高く保つかという点を念頭に置き、疫学と感染症の予防、環境保健、成人保健、精神保健、産業保健、健康教育、社会保障と医療、健康科学を理解できる。		◎		○			
ユニバーサルスポーツ援助技術演習	○	専門展開科目	3～4	スポーツに人間が合わせるのではなく、人間にスポーツを合わせる、全ての人が楽しめるスポーツのあり方とその援助技術の理論と方法について考究できる。	○				◎		○
健康運動指導演習	○	専門展開科目	3～4	健康や運動に関する国内外のデータを検討することから運動実施者増加に向けて解決すべき課題を把握し、さらに、運動実施者一人ひとりに合わせた適切な運動指導の方法について実践的に習得することができる。	◎				○		
障害者スポーツ実践論	○	専門展開科目	3～4	障害のある人が、親しんでいるスポーツの支援法について学ぶとともに、障害の有無を問わずに、スポーツを親しむための方法についても学ぶことができる。また、それらにより、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。	○				◎		
リハビリテーション論	○	専門展開科目	3～4	スポーツ活動による傷害や疾病からの回復を目指したリハビリテーションの知識を学び、スポーツウエルネス分野に必要な不可欠なりハビリテーション知識ならび実践方法を理解できる。		◎		○	○		
スポーツコーチング演習	○	専門展開科目	3～4	スポーツのコーチングにおける諸問題について指導実践や運動分析などを通して学び、スポーツ指導者の素養を身につけることができる。	◎				○		
専門演習1	○	専門展開科目	3～4	大学での主体的な学び方について考え、準備を行う。基本的学習技術を習得する。学部の特徴や専門性について理解した上で、自分の将来設計を考えることができる。	△		◎		○	○	
専門演習2	○	専門展開科目	3～4	大学での主体的な学び方について考え、準備を行う。基本的学習技術を習得する。学部の特徴や専門性について理解した上で、自分の将来設計を考えることができる。	△		◎		○	○	
スポーツコーチング特論	○	専門展開科目	3～4	この授業では、アスリートコーチングに関する実践的研究をもとにスポーツコーチングの捉え方と方法論を検討することができる。	△	◎			○		○
動作分析法演習	○	専門展開科目	3～4	主にビデオ撮影によって記録された映像をもとにして、二次元解析のコンピュータソフトを用いて、角度、速度、距離等のデジタルデータから身体動作を分析・検討することができる。	△		◎			○	
ダイバーシティ・スポーツ演習	○	専門展開科目	3～4	多様なバックグラウンドを持つ各人のスポーツ場面での様々な経験を共有し、スポーツをダイバーシティ(多様性)の視点から考究することの重要性を認識できる。	○				◎		○
生活習慣病の科学	○	専門展開科目	3～4	生活習慣病について、病気概念を理解する。この理解を基に、生活習慣病を予防法に関して考察することができる。		◎		○			
運動処方・療法演習	○	専門展開科目	3～4	運動プログラムの作成と管理、運動負荷方法などの基礎知識、心電図の記録法、血圧、脈拍の測定、方法、意義を理解し、運動指導の意義を理解できる。	◎			○	○		
スポーツウエルネス心理学(応用)	○	専門展開科目	3～4	日常生活やトレーニング時、また本番の競技時に直面するストレスに対して効果的に対処するための心理技法について、理論と実践方法を理解できる。		◎			○		
運動・スポーツ栄養学(応用)	○	専門展開科目	3～4	アスリートの身体組成とからだづくり、競技特性および期分けに合わせた栄養摂取など、コンディショニングとパフォーマンス向上に役立つ幅広い栄養学的知識、これらの教育法について理解できる。		◎			○		

スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科(課程)の カリキュラム					スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)						
科目名	主要授業 科目	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1) 豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる	2) スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる	3) スポーツウエルネス学に必要な自然科学的研究法と人文社会科学研究法を適切に運用できる	4) ウエルネスとスポーツ活動及びそれを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる	5) スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる	6) 自らのキャリア設計をすることができる	7) グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる
組織マネジメントサービス論	○	専門展開科目	3～4	組織のマネジメントに関わる論点(計画、先導、組織化、外部環境への対応、変革など)から、と組織マネジメントの基本理論を理解できる。		◎		○			
スポーツ行政学	○	専門展開科目	3～4	国レベルから都道府県、市区町村レベルのスポーツ行政について、さらには諸外国のスポーツ行政についても触れながらスポーツ行政の基礎理論を理解できる。		◎		○			
アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング1	○	専門展開科目	3～4	これまでにみられる数々のリスクマネジメントの現状を把握すると同時に、実際に起きたスポーツ事故を取り上げ、事故予防の観点から、事故の詳細について様々な角度から把握できる。		◎		○		○	
アスレティックリハビリテーション&リコンディショニング2	○	専門展開科目	3～4	各スポーツ競技にみられる特異的な動作やルールなどの特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導を理解し、有効な指導ができる。		◎		○		○	
救急処置	○	専門展開科目	3～4	救急処置の重要性や実施者の心得について学び、救急処置の基本的な留意点について理解する。また緊急の事故に対する適切な救急処置の手順を理解し、緊急性を判断するための的確な傷害評価の方法を身につける。	△	◎			○		
ストレングス・コンディショニング論(応用)	○	専門展開科目	3～4	筋力、持久力、スピード、協調性などの各種トレーニングやアプローチ方法の理論について理解できるとともに、様々な対象者における目標と課題の設定に対する具体的なプログラム立案ができる。		◎		○		○	
スポーツ医学(内科)	○	専門展開科目	3～4	心疾患による突然死、熱中症、アナフィラキシーショックなどの重要な疾患、および、女性アスリートの問題、スポーツ貧血、ドーピングなど、安心してスポーツを行う上で必要な知識を理解できる。		◎		○			
アスレティックリハビリテーション実習2	○	専門展開科目	3～4	身体機能の評価プロセスにおける結果から抽出された問題点に対する、具体的なアスレティックリハビリテーションおよびコンディショニングについてのプログラム計画の立案と実践ができる。	△				○	◎	
アスレティックリハビリテーション実習3	○	専門展開科目	3～4	あらゆるスポーツ外傷に的確に対応できるようになるとともに、安全・コンディショニング、アスレティックリハビリテーションを実践できる。	△				○	◎	
アスレティックリハビリテーション実習4	○	専門展開科目	3～4	スポーツ現場での事故発生時の救急処置の対応フローチャートの作成・遂行ができるようになるとともに、安全・健康管理およびスポーツ外傷・障害の予防、救急対応を実践できる。	△				○	◎	
運動障害と運動負荷試験	○	専門展開科目	3～4	循環器検査として、心電図の基本的な理解とともに負荷心電図などの運動負荷試験を修得する。また、救急救命に必要な知識を理解し、現場での対処法を修得する。	△	◎	△		○		
スポーツ教材論	○	専門展開科目	3～4	スポーツを扱う教師が教材研究を行なうとは何をどうすることなのか、またどのような教材がよい授業に結びつくのか、その考え方と方法について理解できる。		◎		○		○	
学校運動部指導論	○	専門展開科目	3～4	学校運動部指導に関わる知識や考察を深め、運動部活動の指導のあり方とその方法についての考究から、自分自身の「理想の指導者像」を獲得する。		◎			○	○	
スポーツ人類学	○	専門展開科目	3～4	種々の文化の中で継承され文化的特徴を有する「民族スポーツ」、身体を動かす事を通して体を養うことから心を育む「養生法」、各地域で文化的な特徴を有する「舞踊」などを対象とし、スポーツ人類学の視点と方法について理解できる。		○		○	◎		○
スポーツ工学演習	○	専門展開科目	3～4	スポーツや日常生活における身体動作、ボールなどの用具の運動について、工学的手法を用いて計測・分析する技術を習得するとともに、分析結果をバイオメカニクスの・スポーツ工学的に解釈できる。	△		◎				
スポーツ哲学	○	専門展開科目	3～4	「スポーツ」という現象を多角的に深く掘り下げて、スポーツのあるべき姿、意味・意義・価値などについて哲学的に考察できる。		◎		○	○		
スポーツデータ解析演習	○	専門展開科目	3～4	スポーツ活動中の動きや移動軌跡を記録したデータや、健康診断や体力測定で得られる数値などの、主に量的なデータの解析方法の理論を理解し実践できる。	△		◎			○	
スポーツビジネスコミュニケーション演習	○	専門展開科目	3～4	他人から情報を「引き出す」こと、情報が「伝わるように伝える」ことを実現するための思考法や方法論を理解し、コミュニケーション能力が高まる。	○				◎	○	○
Quantitative Research Methods in Sport and Exercise	○	専門英語科目	1～4	推論的研究プロセスの性質、科学文献の利用、研究問題の定義と評価、仮説の形成、科学的調査と方法、研究計画書の作成などを理解できる。		△	○			△	◎
Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Basic)	○	専門英語科目	1～4	アカデミックリーディングの準備として、英語の語彙を増やし、情報処理を改善し、また、スポーツとウエルネスの分野における多様な知見や考え方に触れるように、一般的な英語のテキストや資料を読解できる。		△	△			△	◎
English Communication in Sport 1	○	専門英語科目	1～4	ルールブックやガイドライン、新聞記事、テレビ番組などのような映像資料を活用し、英語の語彙を増やし、独特の表現や言い回しを学び、さらに、口頭および筆記のコミュニケーションスキルを身につける。		△	○			△	◎
Introduction to Sport and Wellness Overseas	○	専門英語科目	1～4	海外のスポーツとウエルネスの分野におけるトピックや課題についての幅広い学習から、海外と日本との相違点や類似点を探り、これらの課題とその背景にある要因について考究できる。		△			○	△	◎
International Society and Sport	○	専門英語科目	1～4	海外におけるスポーツのあり方、スポーツに対する多様な考え方、その背景にある社会的文化的要素などについて学習し、日本とは異なる社会的文化的背景をもつ海外におけるスポーツに関する理解を深めることができる。		△			○	△	◎
Comparative Sport Culture	○	専門英語科目	2～4	グローバルな視点から多様なスポーツ文化の特徴を探索することに焦点を当てながら、その背景にある文化的社会的要因を考究することができる。		△			○	△	◎
Motivational Psychology in Sports and Exercise	○	専門英語科目	2～4	スポーツやエクササイズの実践におけるモチベーション戦略の重要なコンセプトを理論的に理解し、スポーツやエクササイズの中で他者を動機付けるための介入戦略を提案し、その有効性を評価することができる。		△				△	◎
Reading and Comprehension in Sport and Wellness (Advanced)	○	専門英語科目	2～4	スポーツとウエルネスに関連する英語資料における専門的学術用語を理解し、スポーツとウエルネスの分野における主な概念や理論的アプローチへの理解を深めるために、学術論文を読解・分析・解釈できる。		△	○			△	◎
English Communication in Sport 2	○	専門英語科目	2～4	様々なスポーツ種目やイベント、スポーツメディアの報道、その他英語のスポーツ関連情報を教材とし、実際に英語を使う実技も含め、スポーツに関する議題に対して、英語で議論できる。		△	○			△	◎
English for Future Careers in Sport and Wellness	○	専門英語科目	2～4	グローバルな視点からスポーツとウエルネスの関連分野におけるキャリアのために必要なスキルや能力を習得し、スポーツとウエルネスの関連分野でのエンployアビリティの見通しを高める。		△				○	◎
Contemporary Issues in Global Sports	○	専門英語科目	2～4	グローバル化する複雑な環境にあるスポーツと関連する主な課題や問題点について自ら調べ調査結果についての発表および議論を通じて、スポーツにおける現代的課題や問題点について理解を深めるだけではなく、英語能力と英語のコミュニケーションスキルを向上させる。		△	△		○	△	◎
Psychology of Well-Functioning and Performance	○	専門英語科目	3～4	スポーツおよびパフォーマンス心理学における生物心理社会的モデル、パフォーマンス向上のための重要な構成要素を理解し、自分の機能やパフォーマンスを向上させるための理論的知識を応用および他者の機能やパフォーマンスを支援するための介入戦略の提案と評価ができる。		△				△	◎
心理学1		専門関連科目	1～4	ひとの一生の軌跡を、生涯発達心理学の視点から考察することができる。	△	△			△	◎	
心理学2		専門関連科目	1～4	現代のわが国における子ども・家族の心理臨床的諸問題について考えることができる。	△	△			△	◎	
生涯学習概論1		専門関連科目	1～4	生涯学習概念を社会教育との関連で把握すること、多様な学習機会に注目することによって生涯学習概念を具体的に捉えていくことができる。	△				△	◎	
生涯学習概論2		専門関連科目	1～4	生涯学習概念の基礎的理解を前提として、社会的要請にもとづく生涯学習を具体的に理解していくことができる。	△				△	◎	

スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科(課程)の カリキュラム					スポーツウエルネス学部スポーツウエルネス学科の学修成果との関連 (◎＝強く関連、○＝関連、△＝やや関連)						
科目名	主要授業 科目	科目 区分	配当 年次	科目の学修成果	1)豊かな人間性と高い倫理観を持って、リーダーシップを発揮できる	2)スポーツウエルネスに関する科学的視点や基礎知識・基礎理論を理解できる	3)スポーツウエルネス学に必要なとされる自然科学的研究法と人文社会科学的な研究法を適切に運用できる	4)ウエルネスとスポーツ活動及びそれらを取り巻く社会環境に関する知見と諸理論を包括したスポーツウエルネス学を体系的に理解できる	5)スポーツに関わる人々やスポーツの多様性を尊重し、行動することができる	6)自らのキャリア設計をすることができる	7)グローバルスポーツの現況に触れ、国際的に活躍できる
生涯学習支援論 1		専門 関連 科目	1～4	生涯学習者を育む学習支援の理論を学び、学習プログラムづくりのプロセスデザインを体験することで、学習支援者に求められる実践力の基盤を形成することができる。	○				△	◎	
生涯学習支援論 2		専門 関連 科目	1～4	生涯学習者を育む学習支援の理論を学び、学習プログラムづくりのプロセスデザインを体験することで、学習支援者に求められる実践力の基盤を形成することができる。	○				△	◎	
社会教育経営論 1		専門 関連 科目	1～4	地域づくりを支える社会教育の姿を「経営」の視点から概観することで、社会教育に期待される担い手づくりとコーディネート機能について理解を深めることができる。	△				△	◎	
社会教育経営論 2		専門 関連 科目	1～4	地域づくりを支える社会教育の姿を「経営」の視点から概観することで、社会教育に期待される担い手づくりとコーディネート機能について理解を深めることができる。	△				△	◎	